

# 樹芸研究所自動撮影カメラ調査成果報告

(2016年4月～2021年3月)

渡邊良広<sup>\*1</sup>・小林徹行<sup>\*1,\*2</sup>

Monitoring report of the vertebrates using camera traps in the Arboricultural Research Institute, The University of Tokyo Forests  
(April, 2016–March, 2021)

Yoshihiro WATANABE<sup>\*1</sup>, Tetsuyuki KOBAYASHI<sup>\*1,\*2</sup>

## I. 調査地

調査は静岡県伊豆半島先端部に位置する樹芸研究所（以下、樹芸研）青野研究林（面積214.19ha）<sup>1)</sup>で行った。調査は2地点（オオヌタとアカヌタ）で行った。樹芸研の位置や地況、植生などの詳細については、ウェブサイト（<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/>）を参照されたい。

## II. 調査概要と使用機器

調査は2016年4月から2021年3月までの5年間行った。調査地ごとの稼働期間、動画撮影数内訳、使用した機器および設定条件、位置情報を附表-1に示す。両地点で合計112回の撮影調査を行った。撮影後に同一個体の連続撮影を防ぐため、撮影間隔を60秒に設定した。また、撮影時間は両地点とも42回目までの撮影調査では30秒間とし、その後は10秒間に変更した。なお、鳥類・爬虫類・両生類も、可能な限り同定を行った。

## III. 結果

### (1) 撮影数と確認種

撮影された総数は6,288枚で、そのうち有効撮影は5,046枚であった。鳥類を含む脊椎動物が確認できたものは4,929枚であった。その内訳は、ネズミ類を除く哺乳類2目7科10属10種4,549枚、ネズミ類4枚、鳥類6目12科13属16種290枚、両生類7枚、判別不能125枚であった。判別不能のうち鳥類は81枚であった。哺乳類の内訳はキツネ1枚、タヌキ62枚、テン27

\*1 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所

Arboricultural Research Institute, The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo

\*2 現所属：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林

Present address: The University of Tokyo Hokkaido Forest, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo

枚, イタチ 67 枚, アナグマ 28 枚, ハクビシン 182 枚, イエネコ 5 枚, イノシシ 2,142 枚, ニホンジカ 2,034 枚, ニホンリス 1 枚であった。鳥類の内訳はトビ 3 枚, ヤマドリ 11 枚, キジバト 45 枚, アオバズク 97 枚, アオゲラ 49 枚, コゲラ 14 枚, キセキレイ 3 枚, ヒヨドリ 2 枚, トラツグミ 1 枚, クロツグミ 39 枚, アカゲラ 1 枚, オオルリ 1 枚, ヤマガラ 5 枚, カケス 18 枚, ハシボソガラス 2 枚, イカル 1 枚であった。両生類の内訳はヒキガエル 7 枚のみであった。

#### (2) 鳥獣撮影リスト一覧

樹芸研で 2016 年 4 月から 2021 年 3 月までに撮影された鳥獣撮影のリストを附表-2 に示す。なお、一枚の画像に複数種が映っている場合もあるため、附表-1 の鳥獣撮影数と附表-2 の延べ鳥獣撮影数の合計値は一致しない。

### IV. 謝辞

本調査を進めるにあたり、多数の教職員のご理解とご協力をいただいた。ここに厚く御礼申し上げます。

### 引用文献

- 1) 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 (2012) 樹芸研究所第 4 期教育研究計画 (2011 (平成 23) 年度~2020 (平成 32) 年度). 演習林 51 : 431-456.

「附表－1」および「附表－2」については、東京大学学術機関リポジトリ（UTokyo Repository）に掲載しています。

URI: <https://doi.org/10.15083/0002002922>